

新潟市 | 2次産業化 (田園資源活用) 優良事例表彰2018

12次産業化とは、本市の誇る豊富で多様な田園資源を活用し、福祉や教育、観光交流など市民生活に関係の深い6つの分野との連携を図り、新たな産業・雇用の創出や新潟市らしいまちづくりを目指す、本市独自の取り組みです。
新潟市では、民間における12次産業化の取り組みの優良事例を表彰しています。



株式会社U・STYLE

「鳥屋野潟を活用した豊かな水辺空間の創造と魅力発信」

田園資源×交流

事業の概要

近郊農家の農産物等の販売や自然を活かしたワークショップ等を行う「潟マルシェ」や、鳥屋野潟周辺のレストランによるコラボレーションメニューの提供や潟でとれた魚料理を味わう「とやの潟ウィンターキッチン」の開催、小学生以下の親子を対象に鳥屋野潟の自然の楽しみ方を伝える「とやの潟アウトドアピクニック」など、鳥屋野潟を拠点に、その土地ならではの人やモノの魅力を食や体験を通して発信する取り組みを行っている。



評価ポイント

鳥屋野潟周辺の農商工が学校も含め、年間を通じて潟を利用した土地の魅力を楽しむ取り組みを行い、若者や都市生活者を呼び込んでいる。また、交流だけでなく、SDGsも視野に社会貢献となる取り組みを図っており、新しいコミュニティビジネスとしてモデルケースとなりうる。



事業の理念・コンセプト

土地の文脈を引き継ぎながら「エシカル&クラフトライフ」をコンセプトに、その土地の素材や人々とともにより豊かで創造的、かつ環境に配慮し、社会貢献の側面を併せ持った水辺空間を創る。

動機・思い

鳥屋野潟にはかつて農業・漁業や食を中心とした潟と人の豊かな接点があったことを知り、それを冊子にして毎年発行する中で、今の時代にあった潟と人の接点を創出したいと思い取り組みを始めた。



株式会社 J R新潟ファーム

「『新潟しゅぽっぽ』による地域ブランド向上と観光流動創造」

田園資源×交流

事業の概要

JR東日本グループと市内の農業者が新潟市の国家戦略特区の特例制度を活用し設立した農業生産法人において生産した酒米を県内の酒造と連携し日本酒や甘酒に商品化。米づくりから酒造り、飲み方までつながる「新潟日本酒文化」を通じた地域ブランドの向上と観光流動創造の取り組みを行っている。



事業の理念・コンセプト

日本酒と鉄道を絡めた各種イベントを継続して行うことで、新潟の「ファン」づくり、ひいては地方創生の一助となることを目指している。

評価ポイント

農業と酒蔵の連携にとどまらず、事業者の特性を活かした観光や交流イベントを通じ地域の産業に貢献している。



NPO法人 新潟水辺の会

「鳥屋野潟の五方良し・がってん（潟再生・発展）事業」

田園資源×環境・教育・交流

事業の概要

鳥屋野潟の環境改善と利用拡大に向け、湖畔で空芯菜の栽培や茶などの加工販売、マコモやシジミの定着試験、間伐竹を活用したいかだづくりなど多様な取り組みを、地元の漁業者有志、コミュニティ協議会、元シェフ、潟研究者、地元の小中学校や専門学校などと連携して実施し、鳥屋野潟の持続的な活用を図っている。



事業の理念・コンセプト

五方良し（潟利用者良し・漁業良し・住民良し・環境良し・子ども良し）を理念に、鳥屋野潟の環境改善活動から着地型体験サービスの提供によるソーシャル・エコビジネスを目指している。

評価ポイント

鳥屋野潟の水質浄化と潟の栄養分を利用した作物の生産を両立させるユニークな取り組みである。また、地元中学生等の環境教育に貢献している。



株式会社曾我農園

「園芸福祉農園に向けた取組」

田園資源×福祉

事業の概要

障がい者福祉施設と連携し、障がい者の就労訓練としてトマトの選果や包装等の作業を委託しているほか、トマトラーメンなど福祉施設の商品づくりに協力している。

障がい者の受け入れにより農作業の合理化につながる気づきが得られるなど、互いにwin-winな関係となっている。



事業の理念・コンセプト

選択と集中により経営の基盤強化を図るとともに、将来的には障がい者の直接雇用のほか体験農園や貸し農園の事業展開も目指している。

評価ポイント

経営の継続性を見据えたうえで障がい者雇用に取り組んでおり、将来に向けたビジョンもはっきりしているため、今後の事業展開が期待される。



社会福祉法人 親和福祉会 「秋葉区六条大麦プロジェクト」

田園資源×
子育て・福祉・保健医療



事業の概要

研究機関が開発した新品種の六条大麦を、運営する複数の福祉事業所で栽培から加工・販売までを手掛け、障がい者の雇用増加に取り組む。保育園や大学生と農作業等を通じた交流を行う。地域住民の健康増進を目的とするプロジェクトに参加し、大麦を使用した健康メニューの提案を行う。

事業の理念・コンセプト

大麦の収穫・加工・販売を一貫して法人内で行い、法人発“地域プロジェクト”を構築する。

評価ポイント

産学連携による取組みをきっかけに、近隣農業者や飲食店、保育園等とも連携し、農業者の収入・障がい者の賃金増や、地域住民の健康増進に資する取組みを実施している。



丸榮製粉(株) 「耕作放棄地での小麦生産と 地産地消の推進」

田園資源×環境・交流



事業の概要

耕作放棄地を活用し、県産小麦の栽培に乗り出すとともに、農家や関連事業者によるネットワークを構築し、生産の普及、商品開発等を行っている。収穫体験など消費者との交流なども行っている。

事業の理念・コンセプト

食農企業として、地場産品とのコラボレーション、消費者との交流等により、食卓に健康と笑顔あふれる幸せをお届けしたい。

評価ポイント

耕作放棄地を活用した県産小麦によるビジネス拡大とともに、小麦の生産量増加に向けて関連事業者によるネットワークを構築し、地元経済や農業の活性化、環境保全に貢献している。



(株)欧州ぶどう栽培研究所 「ワイナリー発、農福連携で 雇用・産業の創出へ」

田園資源×福祉・交流



事業の概要

自社農園におけるワイン用ぶどう栽培に係る様々な作業を、地域の福祉団体を通じて障がいのある方々に委託。今後は、農作業以外にも宿泊事業や飲食・販売事業等にも障がい者の雇用の場を広げようとしている。

事業の理念・コンセプト

豊かな自然の中で作業環境を整えることで、障がいのある方のやりがいや向上心を生み出し、対等なビジネスパートナーとしての関係を築きたい。

評価ポイント

ワイン用ぶどう栽培に加え、ワイナリーを観光資源とする宿泊事業、飲食・販売事業等にも障がい者の雇用の場を広げることで、将来的には農福連携による新たな雇用・産業を創出するモデル的な取組みである。



優良事例
賞

NPO法人アキハロハスアクション 「Akiha 森のようちえん」

田園資源×子育て・教育



事業の概要

秋葉丘陵という里山の森の中で、自然を五感で感じながら育つ環境を整え、子どもたち自身の「生きる力」や「主体性」を尊重した保育を実施。

事業の理念・コンセプト

地域の自然体験を通し、人生を豊かに生き抜く人間力の素地を養う。

評価ポイント

地元や教育・子育て関係団体とも良好な関係を保ちながら事業を展開しており、里山資源を独創的かつ上手に活用している。



優良事例
賞

株式会社 たくみファーム 「農業と福祉の、相性のよい関係性」

田園資源×福祉



事業の概要

障がい者を受け入れるため、安全面や工程管理を徹底したことによりグローバルGAP認証を取得。自社で生産したミニトマト「天使の唇」が野菜ソムリエサミットで金賞受賞し、加工品等の販路拡大にも取り組んでいる。

事業の理念・コンセプト

規格外品を活用した加工食品事業の拡大により循環型農業を目指し、障がい者の雇用の場の拡大を目指す。

評価ポイント

障がい者の労働や賃金増を考慮しながら、グローバルGAP認証取得やブランド化、IoTなど、先進的な取り組みも導入しており、農福連携の一步先を行く事例として新たなビジネスモデルとなり得る。



奨励賞

社会福祉法人シャーローム ケアハウス希望の園 「ねっこの会」

田園資源×子育て・福祉



事業の概要

施設に隣接した農地で、近隣の農業者の協力を得ながら入居者と花や野菜を栽培。関連幼稚園の園児向けに苗植えや収穫体験を実施。

事業の理念・コンセプト

農作業を通してお互いに認め合い、和やかな生活を送ることにより、介護予防と健康寿命の延伸につながるよう支援。

評価ポイント

農作業を通じた入居者の健康づくりを目指す取り組みを20年以上行っていることに加え、農地の拡大や生産だけでなく加工も計画するなど新たな事業展開を検討している。



奨励賞

株式会社 総合フードサービス 「地産地消・食育・農福連携で新潟を元気に」

田園資源×教育・福祉



事業の概要

地元農業者から直接仕入れたり、グループ会社で生産したりすることにより地産地消を推進している。自ら代表を務めるNPOを活用し、生産現場における引きこもりやニートの就労支援を実施している。給食を提供している幼稚園児の収穫体験、中学校での地場産表示など食育に取り組んでいる。

事業の理念・コンセプト

食事の提供だけでなく地産地消や食育、農福連携による社会貢献を通じ新潟を元気にしたい。

評価ポイント

認定農業者資格を有するグループ会社を設立し地産地消・規格外品の有効活用を進める中で、引きこもり・ニートの就労支援、障がい者の受け入れに積極的かつ継続的に取り組んでいる。